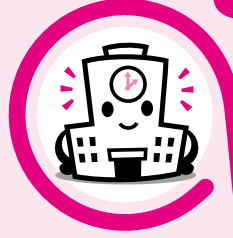


つながる



学校と家庭の学び

保護者を通して

社会性を学ぶキャリア教育

東京都足立区立東伊興ひがしいこう小学校

足立区立東伊興小学校では、保護者や地域と連携して、全学年・全教科でキャリア教育を行っている。保護者は、児童の学習に対する真剣な表情や学ぶ喜びを見ることができ、学校の取り組みへの理解と信頼を深め、学校公開週間には千人以上もの保護者が訪れるという。

身近な社会人である保護者に規範を示してもらいたい

足立区立東伊興小学校は、キャリア教育の推進を学校教育の柱と位置付けている。2008年度、足立区教育委員会の研究奨励校に指定されたのを契機に、全学年・全教科で取り組み始めた。高橋守穂校長は、そのねらいを次のように説明する。

「小学校のキャリア教育に求められるのは、具体的な進路・職業指導ではありません。社会で生きていくための基礎を築くこと、すなわち、

社会性を養ったり、働くとはどういうことかを考えることです。本校では、それを『かかわる力』『活用する力』『見通す力』『やりぬく力』と位置付けて、1年生からこれらを意識した授業を行っています」

キャリア教育を保護者と連携して進めているのも、同校の特徴だ。

「地域とのかかわりが薄れ、共働きの家庭が増えたことなどにより、子どもは大人とのコミュニケーションが不足しています。子どもにとって最も身近な社会人である保護者にこそ、社会性の規範を示してもらおう

ことが大切だと考えました」（高橋校長）

中心となる取り組みは次の二つだ。

■職場体験学習

6年生の夏休みに行うグループ学習で、担任と一緒に自分や友だちの保護者の職場を訪れ、保護者が働く様子を見学し、インタビューを行う。

「就きたい職業を見つげるためではなく、働くことの大変さや、働く人の思いや仕事のやりがい、誇りを学んでほしい。当日は見学に加えて、介護センターを訪れた子どもは実際に車いすを押してみるなど、出来る

だけ働く体験をさせるようにしています」（高橋校長）

担任は、4月から保護者会やプリントなどで協力を呼び掛け、訪問日時を調整。09年度は、児童全員が自分や友だちの保護者の職場、または保護者が紹介した職場を訪問した。

■キャリアアドバイザー(CA)の授業

学年・教科ごとに年間5組ずつ、地域の人を中心に外部からCAとして人を招き、授業に参加してもらう。高齢者が戦争体験を語ったり、地域の農家が米作りを教えたりするなど、身近な大人と数多く接することで、

生きるとはどういうことかを多面的に知る機会を設けている。

CAの人選は、授業のねらいに応じて、学年団で行う。取り組みを始めてから2年間で、計70組に上った。

保護者がCAとなる場合は、掃除や洗濯など家事の仕方について説明



5年生の家庭科では保護者がCAとなり、手縫いやミシンがけを教えた。保護者にとっても、新しい知識に触れられる子どもの喜びを間近で見る機会となっている

車いすを押ししたり、保育園・幼稚園児の世話をしたりと、仕事の一部を実際に体験することで、仕事の大変さややりがいに対する理解が深まる



したり（1年生の生活科）、ミシンの使い方を教えたりする（5年生の家庭科）など、普段から行っている生活の技術・工夫を伝える。「CAとして授業に参加することで、保護者自身が、子どもにとって『学び』の対象になっている自覚が

高まります。また、子どもが真剣に学ぶ姿や理解する喜びの表情を見れば、学校の取り組みへの理解が深まるといふメリットもあります。生き生きとした子どもの様子を知った保護者は、普段の授業も見たくなくなるでしょう。学校公開週間には、毎回千人以上の保護者が訪れます。平日でも仕事の都合をつけて参観する方もいます」（高橋校長）

保護者の学校に対する理解の深まりは、6年生とその保護者が学校の外堀の清掃・塗装を行ったことにも表れている。キャリア教育に取り組み始めた08年度から3年間で、約250メートルの堀をすべて塗り替えた。自分の行動を通して子どもにボランティアの精神を教えたいとい

うPTAの提案により、3年にわたる卒業制作として行った。

子どもは人のかかわりを大切にできるようになった

キャリア教育の成果は、保護者との連携強化だけでなく、児童の変化にも見て取れるようになった。

「朝会などで落ち着いて話を聞けるようになりましたし、登下校時に元氣よく挨拶したり、自発的にCAにお礼の手紙を出そうとしたりするなど、成長を感じます。友だちに親切にしてもらった時なども積極的に感謝の気持ちを伝えていようです」（研究主任の松澤雄一先生）

松澤先生は、キャリア教育で学んだことを自分のものとして考え、自

東京都足立区立東伊興小学校

◎1971（昭和46）年開校。2008年度、足立区教育委員会の研究奨励校に指定され、保護者や地域の人など身近な大人から社会性を学ぶキャリア教育を推進している。

校長 高橋守穂先生

児童数 616人

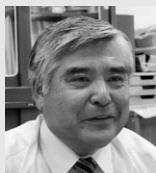
学級数 18学級

所在地 〒121-0801

東京都足立区東伊興1-4-15

TEL 03-3897-5341

URL <http://www.adachi.ne.jp/users/adhiik/>



足立区立東伊興小学校校長

高橋守穂

Takahashi Morio

「明るく、仲良く、たくましく、互いに磨き合い、豊かに表現できる子どもを育てたい」



足立区立東伊興小学校

松澤雄一

Matsuzawa Yuichi

研究主任

「子どもに自分の良さや可能性を気付かせ、それを伸ばせるように支援していきたい」

分の気持ちを順序立てて相手に伝えようとする様子も見られると話す。

「6年生は、職場体験学習の感想を夏休み明けにグループ内で話し合っ

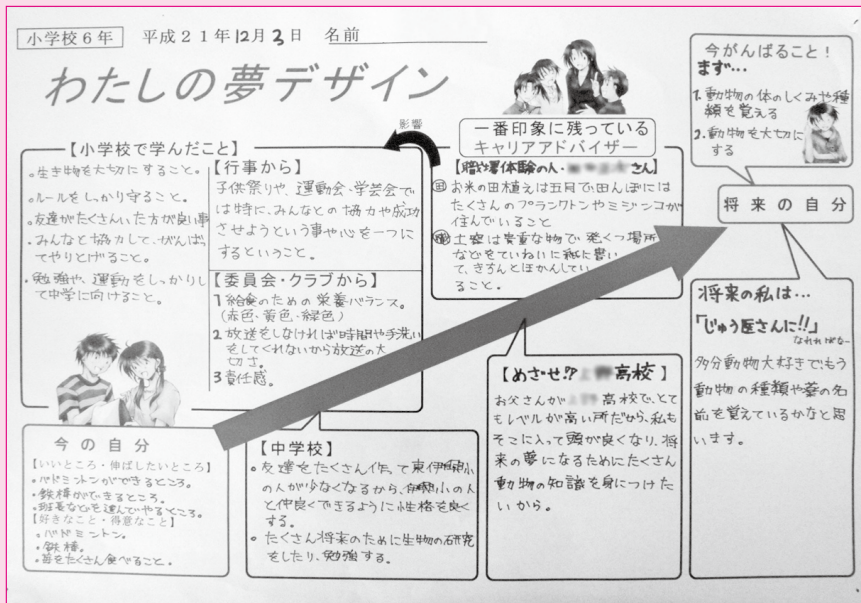
てまとめ、友だちの前で発表します。友だちの発表を聞くことは、自分たちの訪問した職場との共通点、

相違点を考えるきっかけとなり、働く大変さや喜びに対するイメージも豊かになります。『園児一人ひとりに気を配る保育園の先生の大変さがよく分かりました。この経験を忘

ずに、自分の夢に取り組みたいです』

『病院を訪問して、人の命を守る職

図 わたしの夢デザインシート



自分の長所や得意なことを記入し、「今の自分」を確認する。これまでの学校生活やCAから学んだことを振り返り、今後、それをどう生かしたいかを考える。中学校の授業見学や部活動見学、中学生へのインタビューなどを通して中学校生活を想像し、中学校で頑張りたいことを言葉にする。更に、中学校以降の自分像をふくらませ、将来の夢や目標を出来るだけ具体的に書くことで、夢や目標に向けて努力する姿勢を育む。シートは、足立区教育委員会が作成したものを、同校の実態に合わせてアレンジして使っている

業の責任を感じました。応急手当の方法を教えてもらったので、友だちがケガをした時に役立てようと思います』など、多くの子どもが、何を学び、それを今後どう生かしていくかを言葉にしていました。CAへのお礼の手紙にも、感謝の気持ちと共に、自分の心がどう動いたかを伝えられる子どもが増えています」

6年生は、冬休み明けに将来の目標を「わたしの夢デザインシート」(図)にまとめる。ここでも、目標を実現する上で今の自分に何が足りないかを客観的に把握し、中学校でどう伸ばしたいかを自分の言葉で表現する子どもが目立つという。

「相手の話をきちんと聞き、相手



授業でご活用いただける、キャリア教育に役立つ冊子『ジブンよススメ ワークブック』 予約受付中!

ベネッセは2007年度から「家庭学習に関する冊子」などを先生方やご家庭に無料で提供する「学び応援プロジェクト」を実施しております。2009年度は、のべ約8,200校から約125万冊ものお申し込みをいただきました。今回、①小学5・6年生の児童向けに、授業で使えるキャリア教育冊子「ジブンよススメワークブック2010」、②小学6年生の児童向けに、学び方のコツがわかる冊子「中学校に入って役立つ! 自宅でやっている3つのルール」を無料でご提供いたします。ただ今、予約受付中です。詳しくは巻末のカラーページのご案内をご覧ください。ぜひ貴校の教育活動にお役立て下さい。

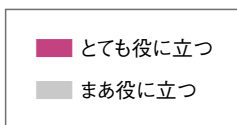
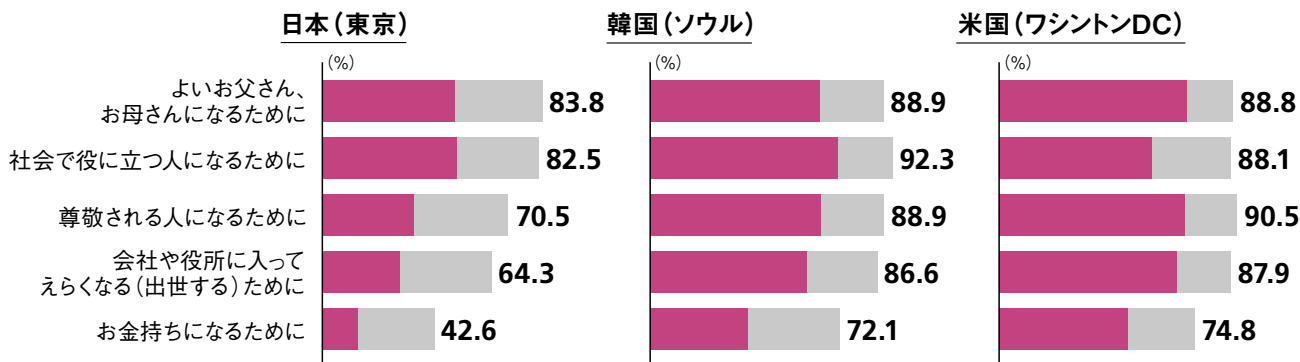


学校&家庭 学び応援プロジェクトホームページ <http://www.benesse.co.jp/manabiouen/>



日本の小学生は勉強の役立ち感がやや弱い

学校の勉強が次のことにどのくらい役に立つと思うか(10~11歳の小学生)



日本はすべての項目で、「役に立つ」と答える比率が他国の小学生と比べて低い。とりわけ「とても役に立つ」比率が低く、学校の勉強の役立ち感が弱い

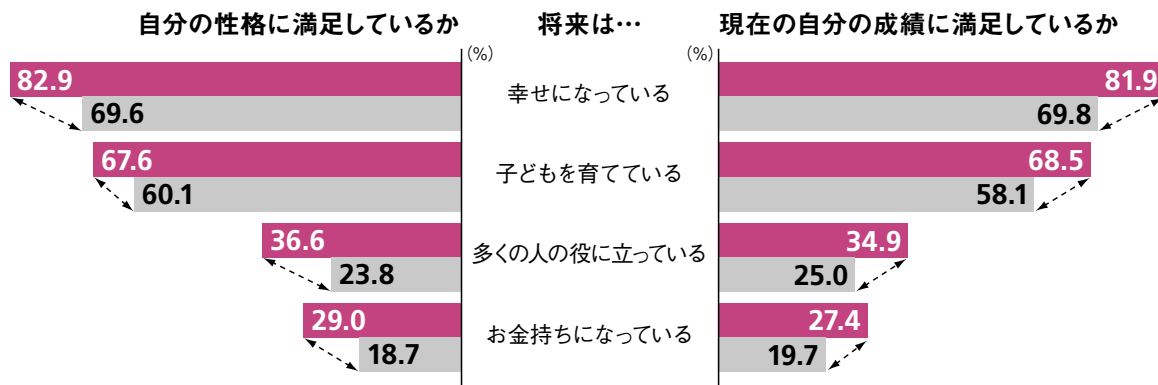
注) 値は、「とても役に立つ」と「まあ役に立つ」の合計

出典: Benesse教育研究開発センター「学習基本調査・国際6都市調査」

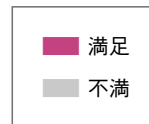
調査時期は、2006年6月~07年1月、調査対象は、国際6都市(東京・ソウル・北京・ヘルシンキ・ロンドン・ワシントンDC)における10~11歳の小学生。
調査方法は、学校通しによる自記式・Web調査

自分の性格や勉強への満足感が前向きな将来観につながる

現在の満足度別に見た将来像(小学4~6年生)



現在の自分の性格や勉強の成績に満足している子どもほど、前向きな将来像を思い描く割合が高い。なお、この傾向は、中学生も同様となっている



注) 値は、「とても思う」と「まあ思う」の合計。各項目の「満足」は「とても満足している」と「まあ満足している」の合計、「不満」は「あまり満足していない」と「ぜんぜん満足していない」の合計

出典: Benesse教育研究開発センター「第2回子ども生活実態基本調査」

調査時期は2009年8月~10月、調査対象は全国の小学4年生~高校2年生(うち小学生は3,561人)、調査方法は学校通しの質問紙による自記式調査



上記の関連データはコチラ!
<http://benesse.jp/berd/>
*「調査・研究データ」コーナーをご覧ください